

## 今週（8月20日から8月24日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、20日にTB3M・TB1Yの発行超過、22日に20Y発行があったものの、国債・短国買入オペの実施により、週間の当座預金残高は390兆円台前半と横ばい圏で推移した。

無担保コールO/N加重平均レートは、積みの序盤ではあるものの、都銀・地銀・証券業態を中心に資金調達サイドしっかりしていたことで、週を通して上昇傾向となった。業態別では都銀・信託業態が▲0.086～▲0.075%、地銀業態で▲0.080～▲0.030%、証券業態で▲0.070～▲0.050%程度の出合いが見られ、週後半にかけてジリジリとレート水準を切り上げる動きとなっていた。また、今週は複数の地銀から+0.001%での試し取りが見られた。ターム物は週を通してショートタームで▲0.040～▲0.035%程度の出合いが中心となった。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは24日に2W物・8,000億円がオファーされ、2,164億円（期落ち額2,154億円）と札割れとなった。

### ●レポ市場

今週のGC市場は、資金余剰感が強い地合いだった。T/Nの取引は、積みの前半ということもあって調達サイドが慎重で、徐々にレートを下げる展開が目立った。出合いのレンジとしては、週初は▲0.12～▲0.10%程度の出合いだったが、週の後半には▲0.15%近辺まで下げる場面もあった。ターム物については、週初は1Wが▲0.125%程度の気配だったが、週後半には▲0.14%程度の出合いが見られ、月末を跨ぐところでは▲0.15%近辺の出合いもみられた。9月末越えでは▲0.14%近辺の気配が見られた。

SC個別銘柄では、20年債のカレント165が非常に難しくなっていたが、リオープン以降は落ち着いた。その他、チーバスの10年340、カレント近辺の351、350、349が出難かった。

### ●短国市場

今週の短国市場は、全般的に閑散なマーケットの中、小甘い展開となった。

20日に実施された短国買入オペは、5,000億円でオファーされた。応札額が16,421億円とやや多かったものの、平均落札利回較差+0.001%、按分落札利回較差±0.000%と落ち着いた結果となった。

24日に実施された3M物の入札は、WI取引において一時▲0.17%での出合いが見られたものの、その後は▲0.154%まで売られる展開となった。入札結果もWI取引を反映し、平均落札利回▲0.1551%、按分落札利回▲0.1463%と按分レートが流れる結果となった。

### ●CP市場

今週のCP発行市場は週間償還総額7,000億円弱に対して、週間発行総額6,000億円程度と償還超となった。夏季休暇明けの事業法人からの資金調達再開により、活況な地合いが想定されていたが、休暇前の前倒し発行が多かったためか大型発行は一部の食料品・不動産業態等に限られ、特段のイベントもなく全般的に落ち着いたマーケットとなった。市場残高は先週に引き続き19.5兆円程度と高水準を維持しており、発行残高が大きい銘柄や期内物では0%近辺が中心となった。一方で期越え物や希少銘柄ではやや強めの買いが散見された。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
8/20（月）	22,199.00	0.090	110.50	△ 0.066	△ 0.120	3,926,600
8/21（火）	22,219.73	0.085	109.92	△ 0.063	△ 0.114	3,933,400
8/22（水）	22,362.55	0.090	110.15	△ 0.061	△ 0.122	3,916,400
8/23（木）	22,410.82	0.090	110.84	△ 0.055	△ 0.138	3,921,500
8/24（金）	22,601.77	0.095	111.42	△ 0.053	△ 0.140	3,916,800

## 来週（8月27日から8月31日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
8/27 (月)			英国休日(Summer Bank Holiday)
8/28 (火)		流動性供給 5,000億円 8/29発行	6月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 8月の米CB消費者信頼感指数
8/29 (水)	沖縄県金融経済懇話会にて鈴木審議委員講演 月例経済報告(内閣府) 8月の消費動向調査(内閣府 14:00)	交付税借入 10,500億円 9/7借入	4-6月期の米GDP改定値
8/30 (木)	7月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)	2Y 21,000億円 9/3発行	7月の米個人所得・消費支出
8/31 (金)	7月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 8月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 7月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 7月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 7月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	TB3M 42,500億円 9/3発行	8月のシカゴPM景況感指数 8月のユーロ圏消費者物価指数速報値

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
8/27 (月)	500	1,500	2,000	国債買入 全店共通 CP買入 社債買入 国債補完	▲ 2,200 ▲ 300 400	9,600 2,200 800	10,500	12,500	TB3M発行▲42500償還39700 国有林野借入▲1000期日1000
8/28 (火)	0	1,000	1,000				0	1,000	交付税借入▲10500期日10500
8/29 (水)	0	▲ 4,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	流動性供給▲5000
8/30 (木)	▲ 1,000	1,000	0				0	0	
8/31 (金)	▲ 200	1,200	1,000	CP買入		2,000	2,000	3,000	
週間合計	▲ 700	700	0	—	▲ 2,100	14,600	12,500	12,500	

8/27は日銀予想、8/28以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、1兆円を越える資金余剰日・不足日は無い見通し。無担保コールO/N加重平均レートは緩やかな上昇傾向が続くと考えられる。月末の31日はビットサイドが減少すると予測されるため、レートが多少低下することも考えられる。レポ市場は、GC取引は引き続き調達サイドの動向如何ではあるものの、月末にさしかかるところでは、一段のレート低下があるか注目される。短国市場は、31日に3M物の入札が実施予定となっており、レート水準が注目される。CP市場は28日にCP等買入オペが2,000億円で実施予定となっている。発行残高が高水準を維持する中、オファーが小規模であるため引き続き若干のマイナスレートでの決着が見込まれる。また、29日は月末発行の入札日となるため期内物の発行を中心に活況なマーケットが見込まれる。

主要なイベントとしては、国内では31日に8月の都区部CPI、海外では29日に4-6月期の米GDP改定値、31日にユーロ圏CPI速報値の発表が予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何かの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようお願い申し上げます。
- ◆金融商品の取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品の取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。